



幸樹

こう じゅ

第108号

2024年3月1日



ホームページ



職員募集

発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会

……………幸樹会事業所……………

からたち薬局・介護ショップからたち ☎047-710-2785

あんず訪問看護ステーション ☎047-701-5559

あんず居宅介護支援事業所 ☎047-701-5558

ケアステーションゆず ☎047-701-5506

看護小規模多機能型居宅介護さんしょう ☎047-710-0331

幸樹会本部 ☎047-701-7550

〒270-2254 千葉県松戸市河原塚 411-1 幸樹会館



「いろいろな雨がふったぞ」

絵・安 蒼那 (あん はんな) 7才

幸樹108号は、 松田貞子さんに インタビュー！

「愛される理由」

以前、このようなタイトルの本がありましたが、松田貞子（ていこ）さんは関わる全ての人々から本当に愛されている方です。そんな「愛される理由」を探るべく、お話を伺いました。

（聞き手： あんず居宅介護支援事業所
介護支援専門員 岩橋 多恵子）



（左から三和病院 高林先生、松田貞子さん、三和病院看護師 秋元さん、看護師 蔭山さん）

松田貞子さん（90歳）は娘の真理子さん、可愛い2匹のワンちゃんをご自宅で暮らしています。三和病院 高林克己先生の訪問診療を受け、介護ショップからたちの福祉用具を活用し、真理子さんの献身的なケアのもと現在はお体の状態も安定していて、日々を穏やかに過ごされています。

貞子さんは「今、こうしていただけるのは皆さんのおかげ」、真理子さんも「これまで関わってくださった方、誰一人欠けても今の貞ちゃんにはなかった」と続けます。

貞子さんは東京・湯島に4人弟妹の長女として生まれました。「ニコライ堂の周りを駆け回ってよく遊んだけど、中に入ったことはなかった。それが空襲に遭って初めて中に入ったの。」命からがら何とかご家族全員逃れましたが、戦時中の光景は昨日のこのように脳裏に焼

き付いています。その経験を貞子さんは3冊の手記に残しています。「当時は思えば今は本当に幸せ。病気でつらい思いもしてきたけど戦争に比べれば、ということもあるかもしれない。」

55歳のときにご主人を亡くされましたが、ご主人のお母さんとも一緒に暮らしていました。孫の真理子さんを可愛がってくれましたが、真理子さんから見てもとても厳しいお姑さんだったそうです。それでも貞子さんは泣きごとも言わず、お姑さんの介護もされました。お姑さんは最期に「あなたのことはあの世で絶対守ってあげるからね」と言い残されたそうです。「おばあちゃんが守ってくれているのかもね。」と感謝しています。

貞子さんは関節リウマチや血液の難病もお持ちです。要介護5でほぼ寝たきりの状態の時期もありました。もともと活発で水泳やフラダンス、手芸やペン習字など習い、またその仲間と食事会や外出なども楽しんでいました。仲間におはぎや小物入れなどを作ってプレゼントし、喜ばれていたそうです。体が思うようにならなくなってからも、水泳はできなくてもその後の食事会に声を掛けてもらっていたそうです。「本当にありがたい。私が元気であることがみんなへの恩返し。」と考えています。

夜寝る前、真理子さんが「おやすみ」と声をかけると「今日も一日ありがとう。明日もよろしくお願いします。」と必ずおっしゃるそうです。もちろん真理子さんへの感謝の言葉ですが、携わる全ての人に向けての思いもあるとのこと。

毎日、新聞の全てに目を通し、学生時代に覚えた英語や漢詩などもスラスラと出てきます。たくさんの方の言葉を吸収しようとする真っ直ぐな心の持ち主です。たくさんの方の病氣も「なぜ私が…」など思うことなく、つらさを優しさに変えられる方なのだと思います。

「いつも、いつもみなさんに感謝しています。ありがとうという気持ちを忘れたことはないです。」とおっしゃいます。



昨年は大事には至りませんでした。何度か三和病院に入院をされました。退院の日、看護師さんにきれいに髪を編み込みしてもらっていたそうです。そんな貞子さんを高林先生は「三和病院のマスコット」とおっしゃったそうです。一方で何度も大変な状況を乗り

超えてきた経験から「鉄の女」(!?)と表現されたこともあります。

研修医の先生の感想

虎の門病院 研修医 石丸海

この度はお忙しい中、1日かけて色々なことを教えてください、誠にありがとうございました。

恥ずかしながら、看護小規模多機能型居宅介護の存在を知らず、今回初めて訪問させていただきました。「住み慣れた自宅・地域で、自分らしく最後まで人生を全うすることを支援する」ということが理念と伺いましたが、とても居心地の良いというか、良い意味で肩の力が抜けているリラックスした空間だと感じました。その一方で、部屋の間取りや動線、多職種の方々の動きは全て、施設利用者の方々へのきめ細やかな配慮に繋がっており、とても感動しました。看護・介護やケアマネージャーなどのサービスが一体となっていることで、一人一人のニーズに合ったサービスが必要十分に提供できていることにも感銘を受けました。午後は訪問看護に同行させていただきましたが、訪問診療よりもさらにアットホームで患者さんとの距離が近い印象を受けました。ドクターには言いづらいけれど、看護師さんには言ってみようかな、ということもあるのだと思います。何気ない会話や困りごとにもひとつひとつ丁寧に耳を傾けながら診察をする看護師さんのおかげで、利用者の方々も安心できているのだと感じました。

雪の降るなかイレギュラーなことも多かったと思いますが、お忙しい中親身に対応くださり、本当にありがとうございました。

ある身近なものとの関係のある薬は、たくさんあります。今は、ネット検索と言う便利なものもありますし、服用中の薬について調べてみると、意外な発見があり、薬への理解も深まります。また、それがご自分の健康管理向上の一助へと繋がっていくかもしれません。皆さんも服用されているお薬、調べてみませんか？お薬についてご不明な点などありましたら、薬剤師までご相談ください。

地域交流カフェ ヨガ教室とアロマハンド クリーム作りを開催



ハンドクリーム作りではワセリンにアロマオイルを混ぜ作りしました。オレンジ・ラベンダー・ゼラニウム・ローズマリーの中から好きな香りを選んでもらいました。色んな香りをかいてみるとどれがどれだか分からなくなっちゃった！と、笑いながら言われている方もいました。ですが、一番人気はオレンジの香りでした。できあがったアロマハンドクリームを手に塗り香りを楽しまれていました。ヨガ教室では幸樹会の職員が先生となり、椅子に座ってできるヨガ体操を教えてもらいました。皆さん先生の言葉を聞きながら同じポーズを取り身体を動かしました。いつもより腕も上がり良く、良い運動になったと思います。乾燥対策と寒さで体を動かさづら季節にピッタリな催しだったのではないかと思います。最後に焼き芋とお茶で一息つきました。鍋で焼いた焼き芋を見て、うわー！美味しそう！！と、声が上がりました。久しぶりの焼き芋で皆さん喜んでいただけました。身も心も癒されるカフェになりました。

さんしょう介護福祉士 宮田敬子

薬剤師 の こころ

からたち薬局

薬剤師 森田いずみ

ここ数年の私の夏の楽しみ、それはベランダ菜園です。昨夏は、同僚からオクラの種を頂き、初挑戦。種を植え、本葉が出てきて、順調に育ってきたある日、よく見ると、オクラの葉や茎に透明の小さな水滴のようなものが無数についています。過去にミニトマトなどでアブラムシの被害にあっていたので、新手のアブラムシ？と急いで調べたところ、その小さな透明の物質の正体は「ムチン」。私たちの胃などの粘膜に存在し、保護してくれるというムチンが、オクラからもこんな風に産出されるとは！「これも、ムチン！」と、そのオクラに付いた粒々たちがとても愛おしくなりました。ムチンと関係のある薬として、胃粘膜保護薬や目薬があります。身近な植物からも産出されるムチンのように、私たちの周りに



幸樹会は2014年2月に設立し今年で10周年を迎え、2月17日に記念式典をあつまーれ幸樹で行いました。幸樹会の従業員やその家族、幸樹会を利用してくださる利用者さんやそのご家族、近隣住民の方々、そして三和病院をはじめとする医療機関の方々と多くの皆さんに参加していただきました。



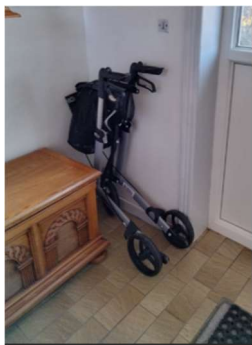
医療法人鼎会の斎藤丈夫理事長の乾杯から始まり、出張寿司、鏡開き、こども駄菓子祭り、シャンパンでのお祝い、イベント盛り沢山の素晴らしい式典となりました。これも皆さんの支えがなければできないことです。幸樹会は20年、30年と地域に貢献していきたいと思ひます。

10周年実行委員長 松下泰樹



デンマーク便り…56

ラスムッセン 京子



夫に申請していた歩行補助器具が届きました。

補助器具の助成を受けられる人は、聴覚障害や認知症など、身体的または精神的に永続的な障害がある場合は、市町村から補助器具購入の為の補助金を受けたり、補助器具を借りたりすることができます。

承認されるには、以下のいずれかに該当する補助器具でなければなりません。

- ・障害の永続的な影響を軽減する
- ・自宅での日常生活を容易にする

または、労働市場にとどまるために必要でなければなりません。市区町村に福祉用具貸与を申請します。補助器具を借りることも、補助金をもらって購入することもで

きます。支援機器を購入する前に、忘れずに補助金の申請することが重要です。

通常、申請する前に支援機器を購入した場合、市町村は補助金を支給しません。

支援器具を借用する場合、その器具が不要になったら、市町村に返還する必要があります。一般的には、車椅子、特殊ベッド、天井吊り具、歩行器、杖を借用します。

補助金を申請する場合、次のことが必要です：

市民サービスセンターが申請のお手伝いをします。インターネット申請でない場合は、申請書を受け取ります。支援機器がどのように日常生活に役立つかの説明を書きこみます。

市町村に、聴覚などの機能的能力が変化したことを証明する書類を提出します。

補助器具の借用を初めて申請する場合、市町村は、病院またはかかりつけの医師から、あなたの健康に関する現在の情報を確認する必要があります。

高齢者の歩行補助器具などは殆ど拒否されることは有りません。夫は許可がおりてから、市の補助機センターに歩行補助機を受け取りに行きました。



そちらで6種類くらいの歩行補助機を見せられその中から気に入ったものをセンターの人から高さの調整をして貰い

使用説明を受けて、説明書を貰って持ち帰りました。写真は室内で撮影したのですが、7.4 kgという軽さとしまうときには畳めば横幅が狭くできます。歩行中に疲れればストッパー機能で動かないようにして椅子として使えますし、買い物時には買い物かごととして前にある袋を使えます。夫は気に入っています。

八柱学習会のお知らせ

2月の学習会は 8名の参加でした。

▼次回学習会予定(定例日:毎月第3金曜日)

3月15日(金) 18:00~、あつまーれ幸樹

テーマ:「おむつ選びのポイント、特性と着け方」
報告

・宮田 敬子(看多機さんしょう 介護福祉士)

《参加自由》

今月の屋上太陽光発電量は、

779KWh

幸樹会館電力使用量 5816KWh 自給率 13.40%



職員募集!非営利・働きがいある職場

看護師・介護職員

●無資格の方もご相談を。資格取得支援制度あり
問い合わせ:本部中野まで、☎047-701-7550